

## スタートアップ支援学習会 実施報告書

### 1 実施概要

- ・ 目的：学校卒業後の障がい者の学びの機会の拡充にあたって、必要な専門的な知識や技術、合理的な配慮について学ぶとともに、障がいの有無に関わらず生涯学習活動への参加者が共に安全で安心して参加できる体制を構築する。
- ・ 日時：令和6年（2024年）12月18日（水）13:30～15:30
- ・ 会場：白老町総合体育館
- ・ 対象：生涯学習事業等実施団体（管内各市町及び各市町教育委員会、NPO団体、障がい者当事者団体、特別支援学校、医療及び福祉法人 等）
- ・ 参加者：17名

### 2 内容や様子

- ・ 胆振教育局社会教育指導班から「道教委における障がい者の生涯学習の取組」について説明した。
- ・ 事例発表では、ゲストハウスたらこ湯の吉原和香奈氏を講師に迎え、「当事者ニーズを踏まえた事業の企画・運営」について説明があった。聞こえないことにより、背後の足音やアラームなど、得られない情報があることや、コミュニケーションの取り方に苦労することなどが参加者に伝えられた。
- ・ 演習では、吉原氏自身もプレーヤーとして活躍するデフフットサルをとおした体験活動が行われ、耳栓を付けた参加者は、聞こえない世界の中でプレーするフットサルに汗を流した。
- ・ 演習後、デフフットサルを体験した参加者全員から意見を伺い、感想交流を行った。



### 3 参加者からの感想

- ・ デフリンピックへの認知度があまりにも低いことを知った。
- ・ 実際にデフフットサルの体験をしたことで、想像以上の気付きがあった。
- ・ 体験を通じて、聞こえないだけではなく、自分の思いを相手に伝えられないもどかしさがあった。
- ・ 手話の言語としての立ち位置が印象に残った。

### 4 学習会の内容を生かした、その後の取組

- ・ 令和7年1月、苫小牧市において吉原氏を講師に「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業」を実施する。

## スタートアップ支援学習会 実施報告書

### 1 実施概要

- ・ 目的：障がい者の学びの機会拡充に向けて、取組を検討する団体等の職員が、必要な専門的知識や技術、合理的な配慮などについて学ぶとともに、実施する上での悩みを解決する相談機会を提供することで、団体等のスタートアップを支援する。
- ・ 日時：令和6年12月18日（水）18:30～19:40
- ・ 会場：鷹栖町北野地区住民センター
- ・ 対象：市町村及び市町村教育委員会、NPO団体、障害者当事者団体、文化団体、スポーツ団体、教職員、医療及び福祉法人職員、その他障がい者の生涯学習に関心のある者 等
- ・ 参加者：14名

### 2 内容や様子

- ・ 上川教育局教育支援課社会教育指導班から、北海道教育委員会が推進する「障がい者の生涯学習」の取組について、その背景や趣旨、取組内容について説明した。
- ・ NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所代表理事である五十嵐真幸氏から「障がい当事者の目線から見た事業の企画・運営」について講義を受けた。講師自身が企画・運営する事業について、事例を交えながら運営上の配慮事項や工夫などを紹介いただくとともに、当事者（障がい者）として、どのようなことにバリアを感じているのか、参加側としてどのような配慮があると嬉しいのかなどをお話いただき、理解を深めることができた。また、「合理的配慮」については、「正解はない」としながらも、運営側は、事業に参加する障がい者に対し、どのような配慮を望むのか遠慮せずに聞くことも大切であると説明を受けた。



### 3 参加者からの感想

- ・ 実際に当事者（障がい者）の話を聞き、障がいをもつ方への見方が180度変わった。
- ・ 避難訓練や宿泊体験など、障がいの有無に関わらず一緒に参加する事業を、まずは実施してみることが必要だと感じた。
- ・ 合理的配慮に正解はないので、お互い遠慮せずに聞いたり伝えたりするための環境づくりをしていくことが必要だと思った。

### 4 学習会の内容を生かした、その後の取組

- ・ 今回学んだことをもとに、鷹栖町北野地区住民センターで実施予定の「防災教室」を障がいの有無に関わらず参加できる事業として企画・運営をし、障がい者の生涯学習活動の支援に対するノウハウを蓄積する。

# スタートアップ支援学習会 実施報告書

## 1 実施概要

- ・ 目的：学校卒業後の障がい者の学びの機会拡充に向けた取組の開始や拡充を検討する団体の職員が、必要な専門的知識や技術について学ぶ学習会や、取組を実施する上での悩みを解決する相談機会を設けることで、団体等のスタートアップを支援する。
- ・ 日時：令和6年12月19日（木）14:00～15:00
- ・ 会場：オンライン開催
- ・ 対象：障がい者の生涯学習に係る事業等を実施（予定も含む）する市町村や団体の職員等
- ・ 参加者：11名

## 2 内容や様子

- ・ 道教委における障がい者の生涯学習支援体制構築の取組について、十勝教育局社会教育指導班より説明した後、北海道立図書館総務企画部企画支援課長を講師に迎え「障がいのある方への図書館サービスのあり方」と題し、講義を行った。
- ・ 図書館におけるアクセシビリティや合理的配慮、障がい者サービスの方法、道内図書館の取組事例について、説明があった。助言や指導の部分では、参加者から「過重な配慮を求められ、断った事例はあるか」との質問があったが、道立図書館ではそのような事例はなかった。
- ・ 学習会が1時間の開催だったため、参加しやすい長さであるとの声があった。



## 3 参加者からの感想

- ・ 自館での障がい者サービスについて、どのくらいできていて、不足しているのは何なのかを考えるきっかけにもなりました。サインひとつにしても、この色合いがいい！ではなく、障がいのある方への配慮は必要で、あらためて障がい者サービスについて考えていきたいと思える講義でした。
- ・ 今回の学習会で、図書館に来館していない方へのPRが大切であることに気が付くことができました。利用者側からの視点、利用しやすい環境になっているか、考えることもできました。
- ・ 図書館での障がい者向けサービスは「すべての人にすべての図書館サービスを」というスタンスが判ったので安心しました。特別や恩恵的なサービスではなく、平等さ、公平さを保てるような取り組みを考えていきたいと思えます。

## 4 学習会の内容を生かした、その後の取組

- ・ 令和7年1月、帯広市図書館において、一般社団法人青鳥舎代表の小川洋輝氏を講師に多様な主体の連携による学習プログラム構築事業「ほん×工作」を実施する。

令和6年度文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」  
(道教委事業名：障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業)

## 障がい者の生涯学習推進キックオフミーティング開催要項

### 1 目的

障がい者の学校卒業後の学びの機会を拡充し、障がいの有無に関わらず生涯学習活動へ安全で安心して参加できる体制を構築するなど、北海道全体で共生社会を実現することの重要性についての理解を深め、取組を推進する機会とする。

### 2 主催

北海道教育委員会

### 3 日時

令和6年6月26日(水) 10:00~16:30

### 4 会場

北海道立道民活動センターかでの2・7 10階 1010会議室

オンライン形式(Zoom)での参加  
ミーティングID 844 3936 4231 パスコード 934622

### 5 対象

- (1) 各教育局社会教育指導班、主査(地学協働、研修・地学協働)
- (2) 社会教育課ネイパルグループ
- (3) 市町村及び市町村教育委員会社会教育・生涯学習担当者 等

### 6 内容

10:00	10:10	10:20	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:20	16:20	16:30
受付	開会	講演	休憩	説明1	事例紹介	説明2	説明3	協議	閉会	

- (1) 講演：「共生社会の実現に向けた社会のあり方と私たちのあり方」  
神戸大学教授(障害者の生涯学習推進アドバイザー) 津田 英二 氏
- (2) 説明1：「障害者の生涯学習の推進について」  
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
- (3) 事例紹介：「仙台市の障害者の生涯学習推進にかかる取組について」  
仙台市教育局生涯学習課企画係 三澤 翠 氏
- (4) 説明2：「改正障害者差別解消法について」(解説)  
北海道保健福祉部障がい者保健福祉課地域支援係長 金子 征史 氏
- (5) 説明3：「道教委における障がい者の生涯学習の取組について」  
「教育局における事務手続きや経費の取扱いについて」  
社会教育課社会教育指導係
- (6) 協議：「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業について」  
各教育局社会教育指導班

### 7 その他

- (1) 各教育局社会教育指導班、社会教育課ネイパルグループは、集合形式での参加を原則としますが、業務等の事情がある場合はオンライン形式(Zoom)での参加も可能とします。
- (2) 各教育局主査(地学協働、研修・地学協働)は、経費(国費)の取扱いに係る説明があることから、説明3への参加をお願いします。
- (3) 市町村及び市町村教育委員会社会教育・生涯学習担当者の参加は、説明2までとなります。

# 令和6年度 障がい者の生涯学習推進キックオフミーティング 事業報告書

## I 事業の概要

- 1 開催日時 令和6年6月26日（水）10:00～16:30
- 2 開催場所 北海道立道民活動センターかでの2・7 10階 1010会議室  
Web会議システムZoom
- 3 参加人数 69名（会場参加23名、オンライン参加46名）

## 4 内 容

10:00	10:10	10:20		12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:20	16:20	16:30
受付	開会		講演	休憩	説明1	事例紹介	説明2	説明3	協議		閉会

- (1) 講演：「共生社会の実現に向けた社会のあり方と私たちのあり方」  
神戸大学教授（障害者の生涯学習推進アドバイザー） 津田 英二 氏
  - ・なぜ社会教育で「障害者の生涯学習」を推進しなければならないのか
  - ・「インクルーシブな生涯学習」という発想の根底と問題意識
  - ・兵庫県内で実施した調査結果から
  - ・特別支援学校等を拠点とした取組事例
  - ・広域的な展開のために何ができるか 等
- (2) 説明1：「障害者の生涯学習の推進について」  
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
  - ・中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理
  - ・障害者の生涯学習をめぐる社会情勢の変化
  - ・障害者の生涯学習に関する現状と課題 等
- (3) 事例紹介：「仙台市の障害者の生涯学習推進にかかる取組みについて」  
仙台市教育局生涯学習課企画係 三澤 翠 氏
  - ・障害者の生涯学習に関するこれまでの主な施策
  - ・ともに学びともに育つ！せんだい・まなびやネットワーク構築モデル事業
  - ・仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業 等
- (4) 説明2：「改正障害者差別解消法について」（解説）  
北海道保健福祉部障がい者保健福祉課地域支援係長 金子 征史 氏
  - ・障害者差別解消法と改正概要
  - ・共生社会の実現に向けて
  - ・合理的配慮の提供と建設的対話 等

(5) 説明 3：「道教委における障がい者の生涯学習の取組について」

- ・これまでの障がい者の生涯学習の取組
- ・障がい者の生涯学習支援体制構築モデル事業
- ・目指す方向性（成果など） 等

「教育局における事務手続きや経費の取扱いについて」

- ・学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業実施要領
- ・経費の取扱いについて（留意事項）

(6) 協議：「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業について」

- ・R5年度実施教育局からの説明（実施報告等）
- ・R6・7年度実施教育局の事業推進に向けた構想・概要の共有

## II 参加者の感想

- ・改正障害者差別解消法についての説明を聞き、目指すべき方向性がはっきりした。協議の中で、先に事業を実施した教育局からの的確なアドバイスをいただくことができ、参加して良かった。
- ・講演では、今まで「活動と参加」から排除されてきた障がい者の方々を中心に据えて、生涯学習体制を構築することの大切さを改めて感じた。また、仙台市の事例紹介から、平時からのつながりが災害時における共助につながるという気付きを得た。
- ・昨年度のコンファレンスでも指摘されていたが、特別支援教育を生涯学習化するアプローチと生涯学習をインクルーシブ化するアプローチの両方の視点が大切だと感じた。
- ・兵庫県のアンケート調査の「平日の退所後が暇で困っている」という余暇時間の苦労や「施設に入ったら食べて寝るだけで情報が届かない、やってみたいことは多いができないことも多い」という障がい当事者の声が残った。共生社会の実現に向けて、誰もが学びを通して社会に参加していくことができるように自分の立場でできることを進めていきたいと思った。
- ・「してあげる、してあげている」という無意識の差別、無自覚の差別は自分自身なかつたのだろうか、知らず知らずのうちに上から目線になっていなかつたのだろうかということを考えさせられた。
- ・障がい者を参加させることを目的とするのではなく、共生社会の実現が目的ということをお忘れず、障がいのあるなしに関わらず、誰でも参加できる、参加したいと思える事業を進めていきたい。
- ・今年度より事業者による合理的配慮の提供が義務化されたことは知らなかつたので勉強になった。
- ・障がい者の生涯学習に関する情報入手が困難であることから、多数のコンソーシアムの活用事例について示され大変参考になった。
- ・単体では取組に限界があり「多様な主体が連携・協働して実施する」ことが大切だと感じた。

## III 成果と課題

### 1 成果

- ・講話、説明、事例紹介等を通して、障がい者の学校卒業後の学びの機会を拡充し、共生社会を実現することの重要性についての理解を深めることができた。
- ・「多様な主体の連携による学習プログラム構築事業について」の協議により、今年度の事業推進に向けての見通しを持つ場の設定ができた。

### 2 課題

- ・障がい者の生涯学習推進に係る道内各地の実態やニーズについての把握がヒアリングベースとなっているため、数値での評価ができる調査が必要である。（前回調査はR2年度）